The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学看護学雑誌　3巻1号 編集後記
Author(s)	荻野, 敏
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1997, 3(1), p. 76-76
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56743
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編 集 後 記

1996年も医学界、看護界に関連した多くのことがありました。一つは大阪府堺市でのO－157による多数の食中毒患者の発生でしょう。かなりの方が重症になり、そのうちの数名は亡くなられています。これは今までの我々の常識を超えており、このような多数の重症食中毒が我が国のようないわゆる経済的、文化的に進んでいると言われる国において起こったということは、全世界にも衝撃的だったに違いありません。これは自然界が与えてくれた我々の奢りに対する警告であったのかも知れません。この事件で教えられたことは、治療よりも予防、生活の改善など、看護、福祉、保健の重要性だということです。それだけ我々の責任が重くなっています。

他に関連したこととして、エイズに対する厚生省の対応の不十分さ、それについての菅前厚生大臣の対応の仕方でしょう。何が最も良いかは分かりませんが、正しい情報を正確に広く知らせ判断を仰ぐことは、我々のインフォームドコンセントとも関連し医学界、看護界にも当てはまることです。現在も調査中ですが、老人福祉施設に関連した厚生省の汚職も考えさせられます。これからの社会において老人の問題を避けて通ることはできません。我々も老人看護、在宅医療の面から極めて密接に関係しており、このことにより老人に対する看護などの政策に遅れがでないことを望んでいます。

1997年には、消費税率アップ、老人の治療費の一部自己負担化、健康保健本人の自己負担率のアップ、投薬料の値上げなどが予定されています。これらのことが医学界、看護界にかなりの影響を与えることは確実です。このことにより我が国の医療情勢が悪化しないことを願うだけです。

さて、多くの方の努力により大阪大学看護学雑誌の3巻目を発刊することができました。小生、今回から編集委員に加えていただき雑誌編集の難しさなどいろいろ勉強させていただきました。今回も、総説、原著など日常臨床にも有意義な多くの内容が含まれています。このようなことを通してお互いの協力、レベルアップに役立って行くことができれば編集委員の一人としてこれ以上うれしいことはありません。

(編集委員　荻野　敏)

編 集 委 員 会

委員長　早 川 和 生 (大阪大学医学部保健学科地域看護学講座)
委　員　安 藤 邦 子 (大阪大学医学部附属病院看護部)
　　中 尾 由紀子 (同　上)
　　滝 本 麻由美 (同　上)
　　小笠原 知 枝 (大阪大学医学部保健学科基礎看護学講座)
　　荻 野　　敏 (大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座)
査　読　京 力 深 穂 (大阪大学医学部附属病院看護部)
　　石 本 章 子 (大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座)
　　原 田 徳 蔵 (大阪大学医学部保健学科母性・小児看護学講座)
　　大 野 ゆう子 (大阪大学医学部保健学科基礎看護学講座)
　　阿 曽 洋 子 (同　上)